

カキの平棚及び立木栽培樹における各器官の構成割合と果実生産力							
<p>[要約] <u>カキ平棚栽培樹</u>は、立木栽培樹に比べて樹全体に占める<u>枝幹</u>の割合が低く、<u>果実</u>、<u>葉</u>、<u>新梢</u>の割合が高い。また、同化器官の葉に対し非同化器官の枝幹の割合は低く、果実の割合が高く、樹冠占有面積当たりの収量が多く、品質も優れる。</p>							
園芸研究所・果樹部・落葉果樹研究室						連絡先	092-922-4111
部会名	園 芸	専門	栽 培	対象	果樹類	分類	指導

[背景・ねらい]

樹高が高いカキの慣行の立木栽培樹を樹形改造によって平棚栽培へ移行する方式を開発し、現在普及を図っている。平棚栽培樹（以下、平棚と称す）は立木栽培樹（同、立木）に比べて品質の優れた果実が安定的に生産されることから、平棚栽培樹の生産構造を解明することは、今後の高品質果実の生産性向上に向けた栽培技術の改善方向を示す上で有意義である。そこで、平棚と立木について各器官の構成割合と果実生産力を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- 1．1樹当たりの地上部乾物重の器官別割合は、平棚では立木に比べて2年生以上の枝である枝幹の割合が低く、果実、葉および新梢の割合が高い。中でも果実乾物重の割合が高い（図1）。
- 2．平棚では立木に比べて〔枝幹/葉〕の乾物重比は小さく、〔果実/葉〕の乾物重比が大きい（表1）。
- 3．平棚では立木に比べて樹冠占有面積1㎡当たり着果数および収穫量は立木より多くなり、葉果比が小さいにも関わらず果実は重く、糖度は高い（表2）。

[成果の活用面・留意点]

- 1．カキ平棚栽培の指導資料として果樹栽培技術指針に登載できる。
- 2．樹高の切り下げや古い側枝の更新を行うなど枝幹の割合を低くし、新梢の割合を高くする技術は立木における収量の安定や大玉果の生産にも応用できる。

[具体的データ]

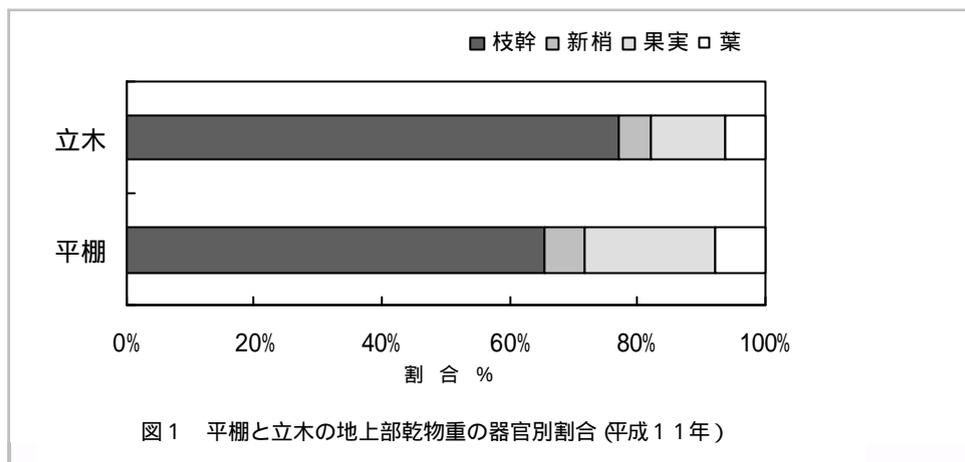


表1 新梢と枝幹部の材積比
および各器官と葉の乾物重比 (平成11年)

仕立て法	材積比		乾物重比	
	新梢	枝幹	果実	新梢
平棚	0.08	8.24	2.56	0.79
立木	0.06	12.00	1.90	0.78

注) 1. 材積比 = 新梢の体積 ÷ 枝幹の体積
 2. 乾物重比 = 各器官の乾物重 ÷ 葉の乾物重
 3. 新梢は1年枝、枝幹は発生後2年以上の旧枝。

表2 単位面積当たり収穫量及び果実品質 (平成11年)

仕立て法	着果数	収穫量	果実重	葉果比	糖度	果皮色
	果 / m ²	kg / m ²	g		(brix)	
平棚	10.2	3.1	305.1	25.8	16.2	5.3
立木	9.3	2.4	261.2	30.1	15.2	5.2

注) 1. 18年生 '松本早生富有' を各区2樹づつ供試した。
 2. 着果数、収穫量は樹冠占有面積1m²あたりに換算。
 3. 果実重は全果実を調査、果皮色はカラーチャート (農水省果樹試) 値。

[その他]

研究課題名：平棚によるカキの省力化生産安定技術開発

予算区分：経常

研究期間：平成11年度 (平成11～13年)

研究担当者：林 公彦、牛島孝策、千々和浩幸

発表論文等：平成11年度園芸研究所果樹部果樹関係試験成績書、園芸学会雑誌第69巻別冊2